

2021-22RI 会長：シェカール・メータ ガバナー：水村雅啓 会長：横田康介/幹事：大谷純一 例会日：木曜日
午後 12:30 開会 会場：熊谷ガーデンパレス 編集・発行：クラブ会報委員会 委員長：園部良一

第12例会 第2644回 11月25日(木)

卓話 【うつろい～「香」】 栗原香扇 様

●点 鐘	横田康介会長	●来訪者紹介	吉岡かつよ会員
●国歌斉唱	参加者全員	●卓 話【うつろい～「香」】	栗原香扇 様
●ロータリーソング/「それでこそロータリー」、 「四つのテスト」	唱和	●謝 辞	横田康介会長
●会長の時間	横田康介会長	●出席状況・ニコニコ報告	渡辺久記会員
●幹 事 報 告	大谷純一幹事	●点 鐘	横田康介会長
		(本日の司会	斎藤浩二会員)

○点 鐘 横田康介会長



横田康介 会長

○会長の時間

先週の卓話にありました月食、ご覧になりましたか？
空が澄み渡って月が欠けていく様が見事に観る事が出来ました。

季節の移り変わりを感じて貰えればと思ひまして。

『季のうつろい』と題しました。

日本人は四季折々の季節感を、五感を遣い空気感を愉しみ味わっています。

五感とは視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚のことです。

五感を通して自然と共生する。

今までの卓話では、お庭を観て夜空に満ち欠けする月を観る。

本日は嗅覚を使つての愉しみ、お香のお話を戴きます。

近頃では、匂いを香水などのお洒落や身嗜みの為の香りの効用が、
アロマテラピーなどの香りを、精神的に安らぐ為の効用を演出するものとして香りの位置づけが変わって来たように思われます。匂いが愉しみを膨らませる物として在る。

日本に於ける“お香”は千年以上も前から続けられ、香りを文化として位置づけ香道として確立して居ります。

嗅覚を研ぎ澄ませることで、自然を感じたのでしょうか。



大谷純一幹事

○幹事報告

皆さん こんにちは！

何やら心地よい香りが漂っております。気持ちが落ち着きますね……。

幹事報告を行います。

来週の例会予定ですが、12月2日(木)プログラム委員会 担当例会で、「年次総会」の例会となります。早いもので、もう半年近くが経過することになりましたので、コロナの影響を受けた前半戦を振り返り、反省部分や良かった点など、皆さんからご意見を頂戴し、後半に活かしていきたいと思います。

場所はここガーデンパレスのこの会場となります。

それと12月18日(土)に予定されていたスクールバンドフェスティバルが中止となりました。

従って12月18日の例会は、休会となりますので宜しくお願い致します。以上です。ありがとうございました。

○来訪者紹介 吉岡かつよ会員

今日の卓話は、8月5日に予定していましたが、コロナ禍のため延期となり、やっと本日に行うことができます。今日は、香道直心流師範・栗原香扇先生をお迎えして「季節の香りを楽しむ」を企画いたしました。お香の歴史を学び、ほのかに漂う幽玄の香りを楽しんで頂きたいと思います。

栗原先生は、香道の文化交流として、2001年より中国を毎年訪問。北京、南京を始めに多くの各地を訪れる。また、新宿と立川の朝日カルチャーセンターにて、香席教室を同門の高橋香愁と毎月主宰。現在も家元直門として伏籠・香道全般の勉強を継続しています。



○卓話 【うつろい〜「香」】 栗原香扇 様



ご自分の好みの香りを作って楽しむのは、アロマセラピーと言い、人工的な配合を行わなわれないのが香りといい、香りは「たきもの」という。

古くいにしえは、金と同額で、香を大切にしました。日本の香はどの様にして来たのか？それは西暦538年に仏教とともに渡来したとみられます。この頃に花道、茶道も渡来したと言われています。

「願いを叶える、願いたいと香を炊く」、奈良の都には、どこも香が沢山炊かれています。

日本書紀に下記のような一節があります。

「推古三年夏四月、沈水※、漂着於淡路嶋、其大一圍。嶋人、不知沈水、以交薪焼於竈。其烟氣遠薫、則異以献之。」(※沈水とは、香木の沈香のこと)

現代風に訳すと、「推古天皇3年(西暦595年)の夏4月、ひと囲いほどの香木(沈香)が淡路島に漂着した。島民は沈香を知らず、薪と共に竈(かまど)で焼いた。するとその煙は遠くまで類い希なる良い薫りを漂わせた。そこで、これは不思議だと思い朝廷に献上した。」

このように、日本書紀に日本最初の香木伝承地として淡路島が記載されています。また、このことを裏付けるかのように、淡路島の歴史書「淡国通記」にも淡路島の南岸に香木が漂着したことが記されています。

(写真下: 左から秋山さん 栗原先生 笠原さん)



3つのお香の香りを嗅ぐ

さて、推古天皇の時代と言え、まさに聖徳太子が摂政として活躍した時代です。「聖徳太子伝略」という文献などによると、聖徳太子は朝廷に献上されたそれをすぐに香木だと見抜き、その香木で手箱と観音像を作った、とされています。いかにも聡明で仏教への信仰の厚い、聖徳太子らしいエピソードですね。

香木伝来伝承地として、淡路島の枯木神社では人の体の大きさぐらいある香木(枯木)をご神体として祀っています。

また、この枯木神社は、淡路島と縁の深い静御前がよく参拝したと伝えられます。もし、淡路島を訪れる際には、枯木神社にも立ち寄ってみてはいかがでしょうか？香りにまつわる歴史のロマンを感じることができるかも知れません。

法隆寺、正倉院、東大寺には、平安の香り、鎌倉の香りが漂い、平安貴族や紫式部にも香がおりなす日常に漂う香りがあります。それぞれ自分の家の自分の香りを楽しむのも良いと思います。

(卓話の一部+資料より掲載しました)

今日は、3つの香炉を用意いたしましたので、その3つのお香の香りを嗅ぎ、それぞれの香炉と香炉をが同じ香りがするか試してみてください。

(答え)1と2が同じで3は異なる香りでした。

○出席状況・ニコニコ報告

渡辺久記会員



宮内会員

【出席報告】

会員数 59 名、出席数 31 名、出席率 53.08%

【にこにこ報告】 5,000円

- 栗原先生様！！本日の卓話宜しく願い申し上げます 横田会長
- 心安らぐひと時を有難うございました。 大谷幹事
- 栗原香扇先生本日は有難うございます。 吉岡かつよ会員
- 大変に楽しみにしています

○点 鐘

横田康介会長

○【 本日の司会 】 斎藤浩二会員



本日の司会
ご苦労様でした。

○ピアノ演奏 細川愉美さん



ありがとう
ございました。

令和3年11月30日 行田ロータリークラブの会長及び会長エレクト以下数名が
白河ロータリークラブの例会に訪問いたしました。



国指定史跡：小峰城跡にて記念撮影

パンフレットは、http://shirakawa315.com/sightseeing/komine_p.pdf

次回の例会は

令和3年12月2日(木) ガーデンパレスで開催されます。

横田・大谷年度の中間地点となる年次総会を開催いたしますので、会員の皆様は、
奮ってご参加頂きたいと思います。

「季のうつろい」を感じさせる例会
——記憶に残る第12例会(2644回)——
令和3年11月25日(木)

SAA

委員長 福島伸悦 副委員長 坂本研一 柿沼孝枝

冬

冬は、寒さに耐えて春を待つ、陰がきわまる季節。冬の語源は、冷ゆとも、古（ふる）が転じたともいわれます。また、生命力を呼び覚ます「振る」、振動して春を迎える「振ゆ」の意とも。神霊が現れることを、みたまのふゆ、と言うそうですが、年神さまを迎える「ふゆ」かもしれません。

酉の市の習わし

かっこめ（熊手御守）

小さな竹の熊手に、稲穂や札をつけた酉の市の御守。かっこめとは、熊手で福をかつ込もうという、縁起担ぎの呼び名。たわわに実る稲穂飾りに、来年の開運、商売繁盛を祈ります。

